

## A-58 塩味の嗜好について (ヤエ報)

県立会津短大 ○佐原昊 成田健

目的 家庭で作られるみそ汁中の食塩濃度に対する家族の嗜好は、祖父母と子供の間に差が認められた(ヤエ報)。これは生理的な味覚構造の違いと、経時的な味覚経験の相違によると思われる。元来、味覚の嗜好形成は家庭の食習慣に負うところが大きい。現在は食生活が多様化し、子供の味覚経験も従来と異なっている。今回は6〜12歳の子供につき塩味の嗜好をテストし、家庭で作られるみそ汁中の塩辛さとの関連をみた。また学校給食のみそ汁中の塩味に対する満足度を嗜好尺度により調査した。

方法 対象は福島県K市立小学校児童全員234人と同県A村立小学校児童全員155人および各学校児童保護者家庭である。嗜好テストはみそ汁を食塩濃度の4〜8%, 0.2%間隔のものを試料とし、連続2日間行なった。同時に家庭のみそ汁はK小は各学年12人を任意に選り連続5日間延300戸、A小は全児童家庭連続2日間延310戸の試料を採取し、その汁中の食塩濃度を全研の食塩濃度計(NA-04)により測定した。またK小については学校給食のみそ汁の塩味に対し7段階の嗜好尺度によるテストを実施した。

結果 塩味の嗜好テストは、K小は平均 $1.07 \pm 0.324\%$ 、男女間に差はなかったが学年間に有意差が認められた。家庭のみそ汁中の食塩濃度の平均はK小 $1.18 \pm 0.282\%$ 、A小 $1.22 \pm 0.282\%$ で地域間に差がみられた。嗜好テストと家庭のみそ汁中の食塩濃度との間には相関がなかった。学校給食のみそ汁中の食塩濃度は平均 $1.02\%$ で、嗜好尺度で丁度よいと答えたものは56%、こい、うすいはそれぞれなかばした。

10月2日(水) 第5会場 午後4:00~5:30